

第1回藤岡市地域コミュニティ活性化に関する懇話会 意見交換概要

日時：令和3年6月21日（月）14：30から16：00まで

場所：市役所中庁舎3階 大会議室

4.議題：(3) 意見交換

※委員の方々の自己紹介と、団体でどんな取り組みをしているのか、地域コミュニティについて日頃感じていることを話してもらいました。

委員 A さん：教育委員会の生涯学習課の諮問機関として、公民館活動や市民活動をどのようにしていくかということを考える役割を担っています。また同時に、地域では学校運営協議会が主催するコミュニティスクールという、まさにこの地域コミュニティ活性化とほぼ同じ内容について取り組んでいて、地域と学校がどう関わっていくかということについて話し合っています。学校や行政が今までやってきたところを、市民や地域の方々がどう助けていけるか。そういったことが今、求められています。新たなコミュニティをという話がありましたが、「昔はこうだった」ではなく、新しい時代に合った新しいコミュニティの形を考えていくことにフォーカスするべきだと思います。地域の構成員も若い人が増え、考え方も全然違う人もいるということを念頭に置いた上で話し合っていきたいと思います。

委員 B さん：平時は通常の仕事をしていますが、火災や台風などの有事の時に市民の安全安心のために活動しています。藤岡市は地域のつながりがしっかりしている方だと思いますが、そういった中でも希薄化があり、消防団員の確保が非常に難しくなっている状況です。地域コミュニティがしっかりしていれば次のなり手も見つかりやすいと思いますので、この話し合いをきっかけに消防団の活性化にもつなげていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

委員 C さん：先程もお話に出ましたが、今は地域のコミュニティ（つながり）が無くなっている。昔は行政や子ども会等の行事の中で人間関係づくりができていましたが、それが今なくなってきていると思います。人間関係がしっかりつくられ

ていれば、自然と地域の中でなり手が出てくるのだが、今はそれがない状態です。地区の運動会を続けているのも美土里地区だけになってしまい、学校の運動会と併せて行ったりと地域でイベントをやっていくのが難しい状況にあります。イベントを通じて地域の人間関係づくりができ、どういう人がいて、どういう考え方をしているのかを知るきっかけが生まれるのですが、コロナの影響もあり今はそういった機会がありません。1年に一度でいいから人が一堂に会して、顔を合わせる機会が必要なのではないでしょうか。そういった取り組みが絆へつながるのではないかと思います。

委員 D さん：藤岡市の老人化率は上がっていますが、老人会の加入については減っている状況なので、色々な活動をして今年度は何とか加入率を上げるべく新たな施策を考えているところであります。どうぞよろしくお願いいたします。

委員 E さん：以前は鬼石婦人会と藤岡婦人会で会員が 3,000 人程いましたが、現在は 260 人位となっており、地域のつながりということではコミュニティスクールの取組みの中で野菜作りや草むしり等のボランティアを行っています。コミュニティとなると、やはりこれからはもう少し密に学校や地域の皆さんと色々連携していければというふうに考えておりますので、懇話会で出た意見を参考に頑張っていきたいと思います。

委員 F さん：私は「活性化」をどう捉えるか？というところが重要で、利便性や人口増というのは、正直これからは難しいのではないかと考えています。生活上の困り事を解決するのはもちろん必要ですが、活性化と言うと、地域を良くする活動、地域を良くする仕掛けだったり、そこに住む人たちが楽しいな、充実したな、やりがいがあるな、と感じられるような活動を継続して行うことが求められているのではないのでしょうか。そのための仕組みやどんな人が関わっていけばいいかという人材育成など、そういった事を大事にしていく必要があると思います。自分が育ったところを好きだと感じている方は沢山いると思うが、そういった方が何か役に立ちたいと思った時に「何を手伝えればいいのか、自分にできることは何なのか」がわからないのだと思います。そんな人たちのために、例えばまずは情報発信を具体的にどうしていくのかを考えていくのも良いのではないのでしょうか。色々な問題がある中で、「じゃあどうするのか？」というところを実践していけば形になり、小さな一歩となって活性化につながるのではないかと思います。

委員 G さん：先程もお話が出たコミュニティスクールですが、藤岡市は全小中学校で実施されており中学校ごとにコミュニティスクールがありますが、いつも地域の方々にサポートいただき大変お世話になっております。地域コミュニティと言うことですが、学校を核としたコミュニティづくり、地域に愛着を持った子ども達を育てるということを目指している訳ですが、学校の中に地域の方々に入っている一方ではなく、子どもたちも地域へ出ていくという双方向であると良いと思っています。地域へ貢献するような、そういった活動ができればいいなと思います。

委員 H さん：このテーマは関心を持っていたテーマであり、発言の機会をいただけることを非常に嬉しく思います。「コミュニティが活性化した状態とはどんな状態なのか？」と考えた時に、自分が住んでいる所を誇りに思える、自信をもって藤岡市に住んでいますと言えるような状態が、私はコミュニティが活性化している状態だと言えるのではないかと思います。不満がない状態なんてあり得ないと思うので、色々な不満はあると思いますが「やっぱり藤岡市で良かったね」と思えるような、自分の子どもに「藤岡市っていい！」と言ってもらえるようにしたいと考えています。子どもが外(市外)に出たいというのは自然なことで、外の世界を見るというのは当たり前のことだと思いますが、大切なのは出ていった後に戻って来るような仕組みがあることだと思います。藤岡に戻って来るとこんないい学校がある、あんなカッコイイ大人がいる、だから藤岡に戻ってくれば安心だというふうに思ってもらいたい。そのためには、他でもない自分自身(親)が子ども達にそんな姿を見せていきたいと思っています。他の誰かではなく、親としてまず自分がどんな姿勢を子ども達に見せていくのかということが一番大事だと思います。今藤岡の中で、異業種コラボをしたり新しいお仕事をつくったりと新しい流れがどんどん出てきているので、色々な不満があったとしても「何ができるのか？」という前向きな取り組みができればと言うふうに思います。

委員 I さん：今までのお話の中で子ども達と地域の関わり合いについてありましたが、親御さんに協力してもらうのがなかなか難しい状況があります。そこをどうやって子ども会の中に入ってもらえるかというところを色々話合ってはいますが、なかなか厳しいというのが現状です。

委員 J さん：団体の代表的な活動としては地域の見守り役ということで、お年寄りや独居の

方を行政につないでフォローしていく役割をしておりますが、私が 7 年前に担当していた時は、一人暮らしの高齢のお年寄りは 6~7 人程度でしたが、今は 20 人程に増えているのが現状です。活動していく中で肌身で感じているのが、独居のお年寄りや母子家庭の方、社会とのつながりが希薄になっている方々と言うのが非常に増えているということです。そういった現状の中で、先程のお話に出てきたように、昔はやっていたが今は無くなってしまったような、活性化する仕掛けが必要なのではないかと思います。私の住んでいる地域ではどんど焼きをしています、多い時では 700 人位集まることもあるぐらい盛況な行事ですが、コロナの影響もあって実施する地域がどんどん減っています。どんど焼きは、小さい子どもからお年寄りまで一緒になって参加できる数少ない行事なので、これだけ地域の人が集まる行事と言うのは他にはなかなかないと思います。こういった人が集まる仕掛けを考えていかなければならないと感じています。また、民生委員として地域支え合い協議体という社会福祉協議会が主催する取り組みで座長をしておりますが、こちらも懇話会と同じテーマを持っていて、地域の中で助け合っていく中で「同じ問題意識を持つ仲間を増やす」ような仕掛けが必要だと感じております。今日は大変参考になる意見がたくさんありましたので、今後の自分達の活動の中に活かしていきたいと思います。

委員 K さん：本団体は地域福祉の推進を図ることを目的とした団体ですが、実際にどんな活動をしているのかなかなか知られていないと思います。そこで、従来から発行している「社協だより」に加え、昨年度から「社協だより臨時号」を年に 3 回発行して、生活困窮者の事業や、障害福祉サービス事業所「さくらの家」の運営、藤岡市から生活支援体制整備事業として委託されている支え合い協議体など、どんな活動をしているのかということを周知しています。この懇話会の中で地域コミュニティを活性化する仕掛けが色々と決まりましたら、支え合い協議体の中でも活かしていきたいと思っております。地域における支え合い、さりげない見守りですとか、ご近所の助け合いなどができればいいなという風に思っております。

委員 L さん：私どもの団体は、現在 11 の会がある中で 6 つの会において一人暮らしの老人福祉サービスで食事の配送をされていて、他にも青少年の障がい者の支援や、技術ボランティアとして音訳・点訳をしたり、老人施設で朗読劇をして活動しています。このところボランティア会員の高齢化が進み、新しい方が入ってこないとい

う先細りの心配があります。社会福祉協議会と連帯して、第一小学校で福祉の時間ということで、4年生を対象に視力障がい者の方へのサポートの話をさせていただいております。子どもさん達に「ボランティアとは何か」ということをお話ししているので、子ども達がお父さんやお母さんに話して若い方が入ってくれるといいなと思っているのですが…。子どもの頃からボランティアについて伝えていけるような教育が必要なのではないかと感じています。皆さんの智恵を借りられればと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

ボランティアの集いで毎年看護学生(大学生)や高校生の生徒さんが参加していますが、30～50代くらいの方の参加がなかなか無いですね。皆さんご自分のお仕事があるので難しいと思います。今は60～80代が中心に活動している状態です。

委員Mさん：委員の皆さんの様々な意見を聞いていく中で、福祉や教育などそれぞれの分野の地域づくりに対する思いがあるかと思います。少子高齢化が進んで地域が希薄化し、住民の利益も多様化する難しい中で、今後どんなことをやっていくのか、その取り組みに対して市として人的な支援や財政的な支援などを考えていかれると思いますので、そういったところをよく見ながら、皆さんと一緒に取組んでいきたいと思っております。

委員Nさん：皆さんから素晴らしいご意見をいただき、この意見をまとめればもう提言書が出来上がってしまうのではないかなと思う程でした。それぞれ素晴らしい考え方をお持ちですので、この考えを是非提言書としてしっかりと一つにまとめ上げていきたいと考えております。新井市長が新しい政策をどしどしと押し進めておりますが、今回は特に新井市長が掲げるビジョン、地域のために今すぐにでもやらなければならない重要な政策だと思いますので、今後も是非、忌憚のないご意見をお願いしたいと思います。また、私も区長会は79地区、79名の区長がおり、各地区の公民館で運営委員また運営委員長を務めておりますので、公民館の運営についきましてもご協力をお願いいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。